

みなさんご存知

『陸前高田

復興まちづくりの情報館』開設



この建物は、被災松から切り出した一枚板に、県立高田高等学校道部の生徒さんが書いたメッセージです！

八月六日、陸前高田市・UR都市機構・震災復興事業共同企業体清水JSCによって開設された『陸前高田まちづくりの情報館』が、旧道の駅高田松原タビック45駐車場内にオープンしました。館内には、震災前から現在に至るまでの状況がわかる写真や図を交えたパネル、松原に残っていた被災松の根が展示されています。

- 震災前の状況：陸前高田市の歴史や地理、市内の写真(高田松原球場や七夕まつり等)
●震災時の状況：地震・津波の概要や被害状況、震災前後の写真(県立高田高校第二グラウンドからの風景等)による津波の記録。
●緊急対応期の状況：震災直後から私たち住民の大きな力になってくれた消防や警察・自衛隊による活動や支援団体(NPO等の動き)。
●復旧・復興の状況：市復興対策局が発行している復興計画主要事業ロードマップや「復興ニューコース」等の拡大パネル。防潮林や高田松原復興



市内、県内、県外問わず、毎日たくさんの方が訪れています

●現在の陸前高田の状況：復興へ向けた再生が感じられる、地域行事運動会等の写真や震災遺構の紹介等。その他、ニューヨーク国連本部で展示されたパネルや、市内の魅力をもとにした観光案内も展示されています。
「少しでも市内を廻ることが出来なかったけど、情報館に来て、震災後だけでなく震災前の陸前高田の様子を知ることが出来て良かった。」と語られる市外の方もおられました。住民さんの中には、気になっていてもこれらの情報をまだ目の前にする事が出来ない方もいらっしゃると思います。本通信が「情報館ってこんなところ。」と知るひとつの手段になれば嬉しいです。



保存処理していた松の根展示の都合上、上下が逆さまになっています

【お問い合わせ等】

担当：陸前高田市 都市整備局 都市計画課 計画係
☎(0192)54-2111

※注意事項

復興まちづくりの情報館周辺は浸水区域です。地震が発生した際は、高台へ避難して下さい。

多機能トイレや入口スロープ等、バリアフリー対応になっています。安心して利用できますね★



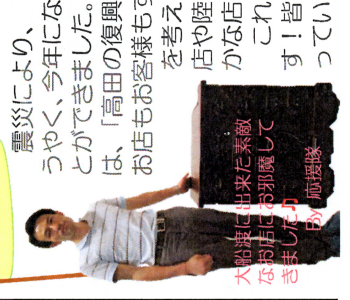
休憩スペースもあいています

柴田さんの友人で、陸前高田未来商店街の事務局をしています、高橋勇樹です。

震災により、経営していた桜木家具店が流失し、ようやく、今年になって大船渡と高田に店舗を再開することができました。再開した高田店がある未来商店街では、「高田の復興へ向けて、人々が出逢い、憩う場所。お店もお客様もすべてが主役となり、陸前高田の未来を考える。」を目指し、陸前高田を代表するお店や陸前高田の為に開業したお店など個性豊かな店舗が頑張っています。

これから、高田の商店街が復興していきます！皆さんも一緒に、陸前高田の未来をつくっていきましょ★

「リレ-deアミーゴ」



【編集後記】

今回で、十三人目をお迎えした「リレ-deアミーゴ」。今更ですが、アミーゴの意味、ご存知ですか？ヒントはスペイン語です。想像力豊かなあなたはもうお分かりですね。大正解！そう、「友達」でした♪

通信つって早一年 成長したと思うのは自分だけかな 手前味噌

連絡会通信

第13号 周年
2014年9月号
9月8日発行
陸前高田市 陸前高田住宅建設協議会
陸前高田市委託
「仮設住宅支援員配置調整事業」
〒029-2205
陸前高田市高田町字
第一中学校仮設住宅
集会所内
(0192) 47-4385
rikutakaseisai@gmail.com

●つづく七々
けんか七々
連絡会の職員は、ほとんどが地元住民ですが、私を含めた三名が県外から来ています。そして八月七日、今年初めて陸前高田の七夕まつりをじつくりと見に行きました。

山車を引く張る姿、太鼓の音、笛の響き、ぶつかり合う山車の勇ましさ。気がつけば山車と一緒に歩きながら掛け声を叫んでいました(後々、しばらく声が響返るほどに...)。



かさ上げの地、造成に伴い、今まで七夕まつりが行われてきた場所での開催は、今年で最後となりました。山車を引いている方たちは、笑顔



顔の人、黙々と引いている人、叫びながら歩いている人等様々でした。しかし共通して、亡くなられた方々に向かって、「強から見てくれているか。みんな元気と書らしているぞー！」と力強いメッセージを投げかけているようで、心が震えました。泣きそうでした。
県外から来た私は、この地の文化や祭りについて詳しいわけではありません。しかし七夕まつりが皆さんに愛され、守られ、継承されてきたのだと、その事だけははっきりと分かります。
横々な繋がりがあつて 今がある
陸前高田市には素晴らしいつながりがいっぱいあると思いま

す。なにも祭りに限られるものではなく。あの震災をみんなが体験し、今までいろんな想いで過ごしていることと思います。その中で生まれたお互いを支え合う絆、励まし合う仲間、頼りになる関係、拠り所となる場所...。周りを見渡せばたくさんの「つながり」があります。私にもいっぱいあります。そのつながりにもう一度目を向けて、感謝の気持ちを行動で返していきたいと思わせてくれる祭りでした。

つながりは消えることばかり



震災を機にこの地を訪れましたが、私は陸前高田が大好きです。私を受け入れてくれてありがとうございます。

住民として考える

活動当初、「社協の相談員さんと連絡会の支援員って何が違うの?」とよく質問されました。一番の違いは、支援員は個別訪問を行わないということですが、住民に寄り添うという活動において違いはありません。そして、私たち支援員も皆さんと同じ住民です。事業開始から一年五ヶ月、通信発行から一年を迎えました。そして、住環境移行期の今、人と人とのつながりが、またも複雑に変化していきます。

住民である私たち支援員が、住民である皆さんと一緒に出来ることは何か。
昨年度から続けている所内ワークショップにおいて、今回、より実行に移せるものを支援員間で試行錯誤しながら作成中です。
自力再建する人、災害公営住宅に移る人、もうしばらく仮設住宅に残る人等さまざまですが、複雑な思いを抱えているのは皆同じです。共に歩んできた仲間を大切に。それぞれが、気持ちよい新たな一歩を踏み出せますように...





災害公営住宅 建設予定地の定点観測

水上地区
市営 30戸

外壁の色はやさしい感じになりそうですね★



栃ヶ沢地区
県営 301戸

これは何が出てくるのでしょうか？



下和野地区
市営 120戸

9月未 completion 予定
新築も少し★



8月10日に、入居者抽選会、入居者説明会が行われました

今泉地区①・②
① 県営 74戸
② 市営 75戸

一本松山地区は新築の同時進行で全体の写真を撮影しました



中田地区
県営 197戸

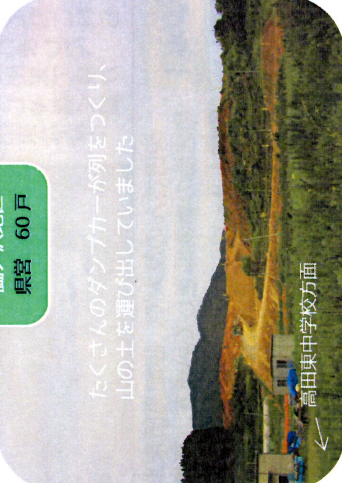
いつもと違う景色の土地です
見る方向によって、進捗状況の見え方も違います！



気仙火橋仮橋

鷹ノ沢地区
県営 60戸

たくさんさんのダンプカーが列をつくり、山の土を運び出していました



高田東中学校方面

※市のホームページ、復興 News 陸前高田、陸前高田市震災復興計画 主要事業ロードマップ、復興庁/つちおと情報館(岩手県)を参照しています。
※撮影日の天候により、実際の色と異なる場合があります。

西下地区
県営 40戸

写真で見えませんが、中で電気をつけて作業していました



柳沢前地区
県営 28戸

こちらの足場も高くなってきました！



以下の予定地は、今後掲載予定です
●長部地区：市営 30戸
●田端地区：市営 14戸

8月15日、気仙川の川開きが行われました。気仙川河口付近では、先相や東日本大震災で亡くなられた方々をしのび、約500個の灯籠が流されました。たくさんの方が集まり、遠く流れゆく光を見つめていました。



8月の動き

町名	自治会数 (仮未加盟自治会数)	中間支援			自治会サポート	自主活動	
		配布物	イベント	物資			
高田	10(3)	48	0	0	1	5	12
米崎	8(3)	21	0	0	0	0	7
小友	5(1)	10	0	0	0	0	5
瓜田	3	9	0	0	1	0	3
竹駒	6	24	0	0	0	2	8
横田	5	20	0	1	0	2	7
矢作	5	20	0	1	0	1	6
気仙	9(2)	36	0	0	0	3	11
住田	3	0	0	0	0	0	3
合計	54(9)	188	0	2	2	13	62

※数は町ごとの延べ数です
※高田町には、民間賃貸借上住宅として進捗会に加盟してある中田雇用促進住宅を含みます

【項目の説明】
○中間支援：行取や名団体からのチラシの配布や提示
□仮未加盟：住居や行取・各団体のニーズに基づいた、照会や開封イベントや物資等
○自治会サポート：自治会からのニーズに基づいた、チラシの作成や助成金申請のサポート等
○自主活動：連絡会通信の発行やカフェエゴ茶つこの実施サポート等

コミュニティ サポート

コミュニティづくりのすめ プチ講座～その1～
どこかの仮設住宅で、子ども20人くらいを対象にお菓子づくりがしたいんですけど。

ひとつの仮設に子ども20人はいねえなあ。せっかくだから、仮設以外の子どもたちも集めて公民館でもやってみたらどうだべ？ 子ども20人もいたら、面倒見人も必要だべつちや。近くのじいさんやばあさんが声をかけて一緒にやっぺし！

断るのは簡単じゃ、一方の条件にとられねず、さまざまアイデアを提示してみると、意外と上手くいくこともあるんじやよ。
無理と諦めるより、出来る方法を考えることが大切。
今回は、身近な資源を使った地域力の底上げにつながる世代間交流の場にもなりそうじゃのへ。地域力の底上げじや！

